

# 2017世界パラトライアスロンシリーズ横浜大会 優勝報告 日本人史上初！夏季・冬季パラリンピック金メダリスト 土田和歌子選手が市長を訪問します

日本人史上初！夏季・冬季パラリンピック金メダリストの土田和歌子選手が2017年6月19日（月）に林文子横浜市長を訪問します。土田選手は、2017年5月13日（土）に開催した2017世界パラトライアスロンシリーズ横浜大会（女子PTHC）で、優勝しました。



## 日時

2017年6月19日（月） 14時00分

## 会場

横浜市庁舎 2階応接室

## 訪問者

土田 和歌子 選手（八千代工業株式会社 所属）

## 2017世界パラトライアスロンシリーズ横浜大会 結果（女子PTHC）

課題のスイムは5選手中4位と出遅れたが、得意のバイクとランで他の選手を圧倒し見事巻き返しに成功、世界シリーズ初出場、初優勝となる。

順位	氏名	国	Compensation	SWIM	T1	Bike	T2	Run	Overall
1	土田和歌子	日本	0:00:00	0:16:55	0:02:19	0:40:59	0:02:07	0:12:51	1:15:11
2	ジェイド・ジョーンズ	イギリス	0:04:48	0:13:38	0:01:31	0:42:05	0:00:52	0:13:36	1:16:30
3	エバ マリア・モラル ベドレロ	スペイン	0:00:00	0:16:18	0:02:53	0:41:01	0:02:00	0:15:30	1:17:42
4	リジー・テンチ	イギリス	0:04:48	0:14:09	0:02:06	0:42:53	0:01:15	0:17:15	1:22:26
5	サラ・テイト	オーストラリア	0:00:00	0:19:53	0:01:49	0:54:48	0:01:49	0:20:27	1:38:46

## 選手プロフィール

### 土田 和歌子（つちだ わかこ）氏

生年月日 1974年10月15日（42歳）  
東京都生まれ 八千代工業株式会社（埼玉県）所属  
2017ITUパラトライアスロン女子強化S指定選手



## ■略歴 《主な戦績は裏面》

高校2年生の時に、友人とドライブ中、交通事故に遭い車いす生活となる。

1993年 アイススレッジの講習会に参加したことがきっかけで、日本で最初にアイススレッジスピードレース※を始める。

※アイススレッジスピードレース（Ice sledge racing）は、氷上においてそり（スレッジ）に乗りおこなわれる、障害者スポーツ。下肢などに機能障害のある選手のみを対象に座位で行うスピードスケート競技。

1998年 長野冬季パラリンピックでは1500mで自己の世界記録を更新し金メダルを獲得

1999年 陸上競技に転向

2004年 アテネ夏季パラリンピックでは5000mで金メダル、マラソンで銀メダルを獲得

日本人史上初の夏・冬パラリンピック金メダリストとなる。

◆◆◆ その後も、北京・ロンドン・リオデジャネイロと、パラリンピックに4大会連続出場を果たす。  
ロンドンパラリンピックでは日本選手団主将を務める。

## ■パラトライアスロンへの挑戦

2017年4月にフィリピンで開催された「ASTCパラトライアスロンアジア選手権」に初参戦して優勝し、5月の2017世界パラトライアスロンシリーズ横浜大会の出場権を得て、見事優勝しました。

年	大会	成績
1994年	リレハンメルパラリンピック	100m、700m、1000m 入賞
1998年	長野パラリンピック	100m・500m 銀メダル 1000m・1500m 金メダル ※1500mでは世界新記録を樹立
<b>1999年（陸上競技に転向）</b>		
2000年	シドニーオリンピック	公開競技800m 銀メダル
2001年	大分国際車いすマラソン	優勝（当時の世界記録樹立）
2004年	アテネパラリンピック	5000m金メダル、マラソン銀メダル
2010年	ベルリンマラソン	優勝
2010年	ロンドンマラソン	優勝
2011年	IPC世界選手権(ニュージーランド・クライストチャーチ) マラソン	優勝
2013年	IPC世界選手権（フランス・リヨン）マラソン	2位
2007年	ボストンマラソン	5連覇
～		※2011年大会では未公認世界記録
2011年		
2008年	東京マラソン	9連覇中
～		
2016年		
2013年	大分国際車いすマラソン	世界新記録更新
2013年	ニューヨークシティマラソン	2位
2014年	ロンドンマラソン	3位
2014年	ボストンマラソン	2位
2017年	ASTCパラトライアスロンアジア選手権	優勝（パラトライアスロン初参戦）
2017年	世界パラトライアスロンシリーズ横浜大会	優勝

### ■世界パラトライアスロンシリーズ横浜大会

5月13日（土）にエリートの部、14日（日）に一般参加のエイジの部を開催。国内外から約1,700名の選手が横浜の街を舞台に熱戦を繰り広げ、13日（土）は雨天にもかかわらず二日間で30万人を超える観客が選手に熱い声援を送りました。まさに「トライアスロン・パラトライアスロンの街、横浜」として、夏の風物詩となっています。

### ■パラトライアスロン競技と世界パラトライアスロンシリーズ

パラトライアスロン競技は、2016年リオデジャネイロパラリンピックから正式競技として採用されました。「2017世界パラトライアスロンシリーズ横浜大会」では、エリートの部、エイジ（一般）の部、それぞれのカテゴリーで開催しましたが、横浜大会では、パラリンピックで正式競技に採用される前の2014年から、エリートパラトライアスロンを国内ではじめて開催しています。

また、今大会からパラトライアスロンの最高峰大会「世界パラトライアスロンシリーズ」が世界3か国で公認され、横浜大会はシリーズ第2戦目として開催し、17の国及び地域から男女合計70名のエリートパラトライアスロン選手が出場しました。世界を転戦しながらポイントを競い合い、パラリンピックイヤーでは獲得したポイント数によってパラリンピックへとつながる重要な大会に位置付けられています。

#### 【クラス分けについて】

選手の障害の程度が競技結果に及ぼす影響を最小化するために、その類型と度合いに応じて、6つのカテゴリーが設けられています。

横浜大会では、手で漕ぐタイプのハンドサイクルや競技用車いすを使用する選手が出場するPTHCクラスで、土田 和歌子選手は見事優勝しました。

クラス	該当する障害の選手
PTHC	車いすを使用する選手
PTS2	肢体に障害のある立位の選手 ※選手の障害の程度によって決まる
PTS3	
PTS4	
PTS5	
PTVI	視覚障害の選手



ハンドサイクル

#### お問合せ先

市民局 スポーツ振興課担当課長  
（公財）横浜市体育協会 トライアスロン推進部長

杉本 光明  
金子 忠彦

TEL 045-226-5036  
TEL 045-680-5538

※お問い合わせや取材についてはトライアスロン推進部長までお願いいたします。